荒尾市立府本小学校　校長便り　No.9

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年5月12日(月)

【愛語録】　「新しい真理の発見の時は、常に少数派である。それが正しければ多数派になる。」　湯川秀樹

たとえ少数派であっても、真実を見据えて前に進んでいくことができれば、ストレスは感じない。要は課題に対して主体的に積極的に関わっているかどうかだ。やがてそれは真実に近づく。最も避けたい状況は、卑屈になること、他力本願になること、責任を他人に転嫁すること、余計なことを喋り過ぎることだ。正しいと信じて黙々と前に進むことが大切だと思う。

「今をどう生活するか」

子どもたちの心や体の変化は毎日接していらっしゃる保護者の皆様が一番ご存知のことと思います。高学年の子どもたちには、体の変化に伴って心にも微妙な変化が生じます。いわゆる思春期という時期です。難しい時期ですが、目標を見つけそれに向かって前進することが出来れば、飛躍的な効果をあげることがあります。しかしながら、物事の本質を見失い、欲や本能だけで行動すると悪い結果を生む時期でもあります。

思春期の典型的な行動パターンを幾つか紹介しましょう。まず、親とは違った価値観を身に付けようとするため、大人への「反抗的態度」が出てきて、ちょっとしたことで怒ったりします。また、オシャレにも気を遣いはじめます。男子も女子も服装には敏感です。周りの友達にどう見られているかは、とても気になることのようです。（私は「ほろは着てても心は錦」ですが…）髪型も同じです。男子女子ともに、整髪料を使う子もいますね。また、周囲の仲間や大人に認められようとして、自分のキャパシティ以上に頑張るものだから、そのストレスに耐えきれず、不安定さを露呈することもあります。誰もが通る時期ではあるものの、親としては心配な時期でもあります。

やっていることはとても幼いのですが、子どもたちは真剣です。でも、そういったことが大人の目からはどのように映るか、自分の将来にどのような影響が出てくるのかを知っておかなければなりません。中学校になって、反抗的な態度ばかりとったり、オシャレに気を遣い過ぎたり、ルールが守れなかったりすれば、高校進学に影響がでてくることもあります。そこをどう伝えるかが、我々の腕の見せ所です。ご家庭の団欒の話題にしてみてはいかがでしょう?

《雑感》最近の社会②

最近の社会②です。私個人としての独り言です。

②大人と子どもの関係の変化

友達のような先生、友達のような親子とか、聞きませんか、こんな話。私が知っている先生の中に、子どもたちからニックネームで呼ばれて平気な先生がいたのです。学校での教師と教え子の関係は、師弟関係です。私自身、担任時代はそのような関係性を保ってきました。そしてできる限り我が子と同じように接しているつもりです。だからこそ厳しく接する場面が多かったのでしょう。小学校高学年の精神発達段階で、大人と友達関係のような付き合い方をするのはよくありません。今、縦の社会について学んでおけば大人になって非常に役に立ちます。

④躾＝押し付け?

躾に関する考え方も、最近は少しずつ変わってきていますね。いつかテレビで見たことがあります。それはこんな場面です。「私は自分の子どもを、自由にのびのびと育てています。」これはこれで良いのですが、自由を履き違えてしまうといけません。何でもかんでも自由の中から生まれてくるものではありません。躾やあいさつに代表されるマナーなどは尚更です。私達大人が無理やりにでも教えていくべきだと思います。文字通り押し付けですが、正しいこと、不易なことは私たち大人が「お躾」していかなければならないと思いませんか?

シリーズ「自分を語る」#9

小学校1年生時に、忘れもしない件が起こります。私の1・2年生時の様子は、担任の先生から見ると、どちらかというと「おとなしい」と言った方があてはまるかもしれません。そんな澤田君を、体調不良が襲います。この出来事が澤田少年を極限まで追い詰めることになるとは想像すらできませんでした。その事件とは…?

ある日の給食のとき、メニューに「ゆで卵」がでました。私はゆで卵、嫌いじゃないんですよ、好きなんですよ。その給食のとき、たまたま体調が悪かったのか、お腹が痛かったのか、私はゆで卵を食べることができませんでした。しかし、それを周りの友達は許してくれませんでした。今の時代と比して偏食やアレルギー、体調不良に対する考え方も成熟した社会ではありませんでした。私自身も「食べなきゃ…」って思い、そしてとった行動は…。私は食べきれなかったゆで卵を、机と引き出しの間に押し込んでしまいました。

数日後、卵が腐って異臭を放ち始めます。私の机の中からはハエが飛び交っていました。私は毎日その事で悩み、学校に行くのが嫌で嫌で仕方がなくなっていました。ある日の夜、私は母にその事を話しました。今になってもたまに話すんですよ。母も只ならぬ雰囲気に驚いたということを。

次の日、私は母と一緒に学校に行きました。あまりの異臭と机の中でウジ虫が這いまわる状況に、母は悲しかったのではないかと今になって想像します。当時の私は「やっと苦しみから解放される!!」という安堵で一杯でした。後になって聞かされた母の一言です。

「敦が好き嫌いするとが悪か。」

その時は体調が悪かっただけなのですが、確かに母の言うことにも一理あります。今、私自身が教職の道に進み、私だったらどのような対応をするだろうと考えた時、こう言うだろうと思います。

「アレルギーがあるならともかく、ただの好き嫌いは基本的に認めません。でも、体調が悪いのなら話は別ですが…。」

命を頂く以上、残さず食べるのが基本であり、感謝の気持ちを表すことであり、「いただきます。」の挨拶につながるのです。今も自分の子どもに言います。「食べ物に対する感謝を忘れず、好き嫌いせず、味わって全てを頂きなさい。」と。

今では良い思い出としてありますが、当時の担任の先生は気が付かなかったのでしょうか? 教室環境は担任教師の最前線の仕事場なのに、あれだけの異臭の中で本当に気が付かなかったのでしょうか。子どもの出すサインに気が付かなかったのでしょうか。このことは何かのヒントだったような気がしています。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）